

オンライン授業（体育心理学）の評価

保健体育講座・田中雅人

1. 授業の概要

この授業では、体育・運動・スポーツを心理学的側面から研究するための科学的基礎を得ること、体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得することを目的とした。なお、到達目標は、1) 運動の学習と学習過程に関わる主要な概念、および種々の運動学習理論の変遷を説明できる、2) 運動の記憶や知識構造と運動学習との関連性を情報処理的な立場から説明できる、3) 視覚を中心とした知覚システム、および情報処理の概念モデルを示すことができる、4) 主体的に実験実習に取り組むことができるの4つであった。

到達目標を達成するために、1) 運動学習の過程、2) 学習理論、3) 運動学習の理論、4) フィードバック、5) 運動の記憶、6) 運動の知覚、7) 状況判断の過程の7つの領域について概説した。受講生は26名で、修得した知識をスポーツ実践や指導に一般化できることを目指した。評価は、課題・レポート（40点）、試験（40点）、学習状況（20点）とした。

オンライン授業では、Moodle、Zoom、修学支援システムを使用した。それぞれの用途は、以下の通りである。

Moodle：資料の配付、課題・レポートの提示、課題・レポートのフィードバック、動画の配信（Youtubeへのリンク）、アンケート調査

Zoom：同期型授業、グループワーク（ブレイクアウトルーム）、チャット

修学支援システム：メール送付（資料のダウンロード、課題の指示、授業への招待など）

同期型授業では、プレゼン用ソフトを使用し、図表、写真、動画、アニメーションなど、その特性を有効に活用できるよう努めた。

2. 授業評価

従来実施していた評価項目に、オンライン授業に関する項目を加え、以下の6領域・18項目に対する5段階評定と自由記述による質問紙調査を実施した。各項目の評定の平均値とヒストグラムを示した（図1）。

●理解度

1. 授業の目的は、十分に達成された。
2. 到達目標は、十分に達成された。

●授業内容

3. 授業はシラバスに則して行われた。
4. 授業の進度・時間配分は適切であった。
5. 授業のレベルは適切であった。
6. 授業内容は役に立つものであった。

●教授方法

7. 説明はわかりやすかった。
8. 質問や発言の機会が適切に与えられていた。
9. 視覚的教材（スライド、ビデオ）の使い方は効果的であった。
10. 配布資料の使い方は効果的であった。

●オンライン授業

11. Moodleによる資料配布や課題提示は有効であった。
12. Zoomによるオンライン授業は有効であった。
13. Zoomでのグループワークは有効であった。

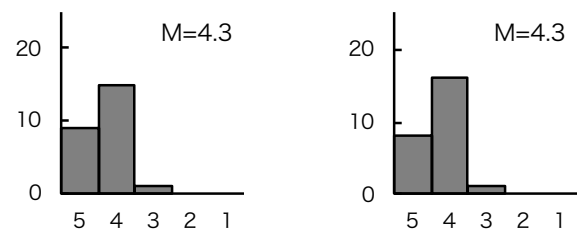
●受講生の意欲・関心

14. 授業に対して意欲的に取り組んだ。
15. 授業の内容に対して興味・関心があった。

●評価に関わるもの

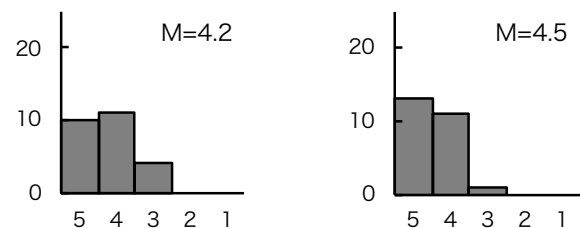
16. レポートの課題は適切であった。
17. 試験の内容は授業内容に則していた。
18. 評価の方法は適切であった。

図1



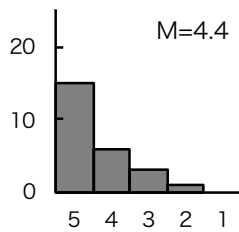
1.目的

2.到達目標

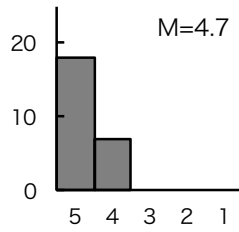


3.シラバス

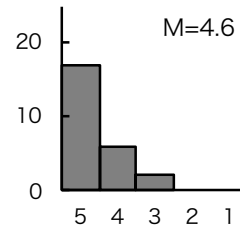
4.進度・配分



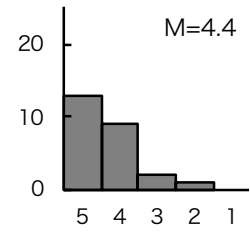
5.レベル



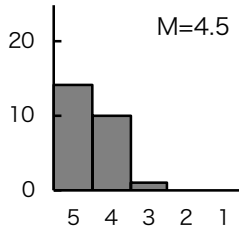
6.内容



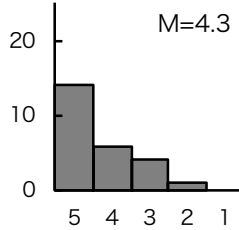
17.試験の内容



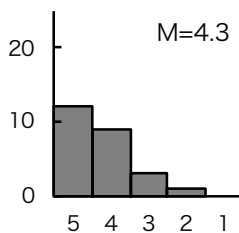
18.評価の方法



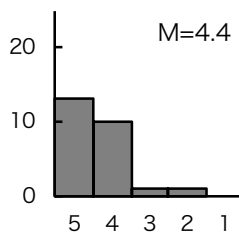
7.説明の仕方



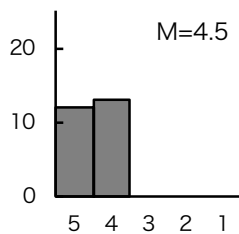
8.質問・発言



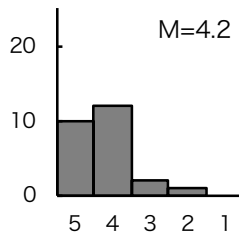
9.スライド



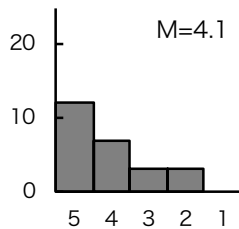
10.資料の配付



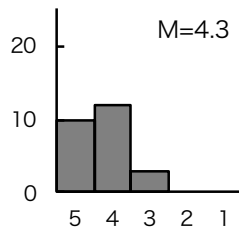
11.Moodle



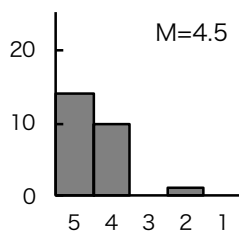
12.オンライン授業



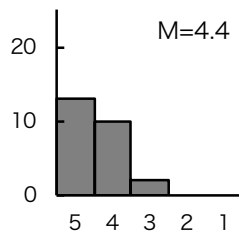
13.グループワーク



14.意欲



15.興味・関心



16.レポート

1) 理解度

評定値は4.3で、概ね達成されていた。

2) 授業内容

【3.シラバス】を除いて、4.5前後の高い評定値であった。オンライン授業になったことにより、シラバスに示した全ての内容を実施することができなかった。「実験等が実際に行えなかったのが残念だった」等の記述があったように、実験実習ができなかったことで低い評定となった。授業内容については、「体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得する」ことを達成するために適切であったと思われる。「指導者の立場だけではなく、自身の競技者の立場としても勉強になった」等の記述もみられた。一方、授業のレベルについては、評定値にばらつきがみられ、少し難しく感じている受講生もいた。

3) 教授方法

評定値は、4.3~4.5であったが、値にばらつきがみられた。資料の配付にはMoodleを使用した。書き込みが必要なものもあったため、印刷環境が整っていない場合には不便だったかもしれない。スライドは、Zoomの画面共有を用いて提示した。「どこの部分を説明しているのかが同じ画面を見ておりカーソルを見えるのでわかりやすかった」という記述があった一方で、「映像等が見れないことがあった」等、通信環境によっては、動画がうまく流れなかったり、音声途切れる等の問題があったようだ。対面での授業と同じスライドを使用した。動画については、通信環境への考慮が必要であった。なお、容量が大きい動画については、YouTubeを活用することで対応した。【8.質問・発言】については、「その場で疑問に思ったことが質問しにくかった」という記述があったように、対面授業との差を最も感じた。Moodleを使用して、授業後に質問できるようにしていたが、あまり有効に活用されたとはいえない。オンライン授業で質問や発言の機会をどのように保障するかは、今後の課題である。

4) オンライン授業

【11.Moodle】の評定値は4.5と高い値を示した。資料の配付、課題・レポートの提示とそのフィードバック、動画配信のためのリンク、アンケート調査等にMoodleを活用した。他の授業でも使用されているため、受講生にとっても使い勝手のよいシステムだったと思われる。オンライン授業にはZoomを使用した。が、「たまにズームの接続が途切れる」、「iPhoneで参加すると流れない映像があってオンライン授業の難しさを感じた」、「通常授業と比べて反応がしにくい」等の記述があった。一方、「オンラインも対面もあまり変わらないくらいスムーズだった」、「内容がわかりやすくZoomの授業でも理解できた」等の記述もあり、受講生の通信環境や使用している機器により、評価が分かれている。また、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使い、対面授業で行っているようなグループワークを試みたが、対面授業と同等の効果を得るのは難しく評定値も4.1と低い値であった。「毎回異なる人とグループワークができた」との肯定的な評価もあったが、受講生自身が、オンラインでのディスカッションに慣れる必要性を感じた。

5) 受講生の意欲・関心

【14.意欲】の評定値は4.3，【15.興味・関心】は4.5であった。一部ではあるが、興味・関心が低い受講生がいた。シラバスを確認していると思うが、授業の初めに授業の目的・到達目標等を再度、周知しておく必要がある。

6) 評価に関わるもの

いずれの評定値も4.5前後と高い値を示した。レポートは、実験を行いそのデータを用いて分析する予定であったが、実験が実施できず過去のデータを使用したため難しい作業になったと思われる。データのまとめ方やレポートの書き方について学んだことを今後の学習に活用して欲しい。試験は、この授業で修得した基礎的な知識を活用する問題であった。最高点と最低点の差は63点で、かなり大きなばらつきがみられた。オンライン授業となったことが何らかの原因であるのかは、今後検証していく必要がある。

3. 過去の授業評価との比較

オンライン授業の影響を検討するため、2018年度に行った授業評価の結果と比較した(表1)。

| 項目 | | 2018 | 2020 | |
|---------|---------|------|------|---|
| 理解度 | 目的 | 4.3 | 4.3 | |
| | 達成目標 | 4.1 | 4.3 | △ |
| 授業内容 | シラバス | 4.5 | 4.2 | ▼ |
| | 進度・配分 | 4.8 | 4.5 | ▼ |
| | レベル | 4.5 | 4.4 | ▼ |
| | 内容 | 4.7 | 4.7 | |
| 教授方法 | 説明の仕方 | 4.6 | 4.5 | ▼ |
| | 質問・発言 | 4.1 | 4.3 | △ |
| | スライド | 4.7 | 4.3 | ▼ |
| | 資料の配布 | 4.4 | 4.4 | |
| オンライン授業 | Moodle | | 4.5 | |
| | オンライン授業 | | 4.2 | |
| | グループワーク | | 4.1 | |
| 取り組み | 意欲 | 4.3 | 4.3 | |
| | 興味・関心 | 4.7 | 4.5 | ▼ |
| 評価 | レポート | 4.3 | 4.4 | △ |
| | 試験の内容 | 4.6 | 4.6 | |
| | 評価の方法 | 4.2 | 4.4 | △ |

△：上昇，▼：低下

評定値が低下している中で顕著なのは、【3.シラバス】，【4.進度・配分】，【9.スライド】であった。前述したように、オンライン授業となり、予定していたシラバス通りに授業が進行しなかったことが、低下の原因だろう。また、対面授業と同様にスライドを用いたが、「対面と変わらなかった」という記述があった一方で、通信環境によっては難しさがあったようだ。スライド上で流す動画にも、通信環境により差が生じた。事前に通信環境を調査したところ、大部分がパソコンを所有し、容量制限のないインターネット接続環境であったが、一部、スマートフォンでの受講であったため、今後はパソコン、あるいはタブレットの貸与、通信環境の整った講義室の開放等、対応を検討していくことが必要である。